

保存修復学②

— 窩洞 (cavity キャビティ) —

窩洞とは

- 齶蝕を除去した後，修復物が歯に保持できるよう，
歯質内に形成された形態。
- わかりやすく言うと，虫歯のあったところを削って，修復物を詰めやすいように歯を削って整えてできた形のこと。
- 窩洞は，レジンやインレーなどの修復物が外れないように配慮して形成する必要がある

窩洞の構成

—窩壁，窩縁，隅角—

1) 窩壁

窩洞を構成する壁。側面の壁を側壁，底面を窩底という。

歯の長軸と直交する窩底を歯髓(側)壁という。

歯の長軸と平行である窩底を軸壁という。

2) 窩縁

窩洞の内部(側壁)と歯の表面が交わる箇所。

側壁と歯の表面が作る角を窩縁隅角という。

側壁と歯の表面が作る角を窩縁斜面(ベベル bebel)という。

<目的>

エナメル質窩縁の保護, 修復物辺縁の破折防止, 辺縁封鎖性の向上, 鑄造修復の保証, 修復物の接着性の向上

3) 隅角

窩壁と窩壁が接してつくられる角のこと。

2つの壁が接する線状の隅角を**線角**，3つの壁が接する点状の

隅角を**点角**という。

別紙プリントおよびテキスト(p.21-22)を参照のこと

窩洞の分類

1) Blackの分類 1級～5級までである。

- 1, 5は隣接面を含まない。2, 3, 4は隣接面を含む。
- 1, 2, 4級窩洞の修復物には、上下の歯が咬合した時に、大きな力が加わるため、グラスアイオノマーセメントのような強度の弱い材料による修復は不可能。

窩洞の分類

2) 形成された歯面による分類

3) 窩洞の形態による分類

4) 修復材料による分類

5) 歯面の数による分類

- 単純窩洞：窩洞の概形線が1歯面にとどまる窩洞
- 複雑窩洞：窩洞の概形線が2歯面以上にわたる窩洞

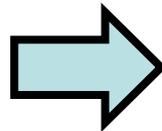
別紙プリントおよびテキスト(p.22-23)を参照のこと

窩洞が持つべき条件

— 詰め物の抜け落ち防止と歯を守るため —

1) 適正な窩洞外形をもたなければならない。

- 齲蝕の範囲，修復材料の性質，審美性などに配慮。
- 不潔域：口腔清掃が困難でプラークが付着しやすい場所。
齲蝕が発生しやすい。咬合面の小窩裂溝，隣接面など。
- 予防拡大：齲蝕の再発防止のために，齲蝕の周りの不潔域を含めて削除すること。小窩裂溝，隣接面など。



溝と隣接面をすべて含めた形に修復されている！

窩洞が持つべき条件

2) 適正な保持形態をもたなければならない。

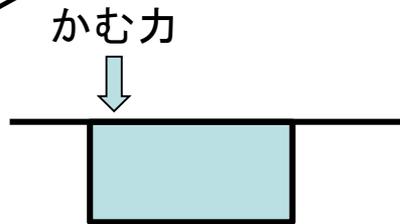
窩洞から修復物が離脱しないような形態にする。

つまり、**詰めたものを外れにくいような形にする**ということ。

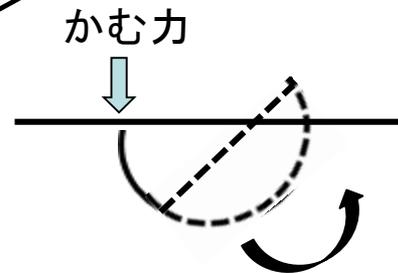
① 基本的な保持形態

箱型，内開き型，外開き型

<箱型>



<舟型>



箱型のほうが
滑って落ちにくい

窩洞が持つべき条件

② 補助的な保持形態

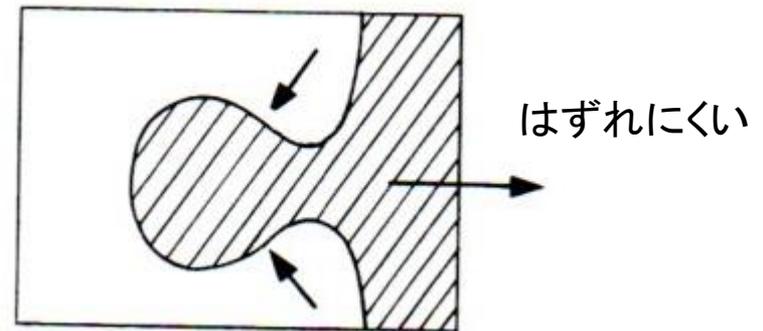
- 階段
- アンダーカット(穿下(せんか))
- 鳩尾形(きゅうびけい)
- ピン
- 小窩

...など

◆ アンダーカット(斜線部)



引っ掛かりがあるので
外れにくい



◆ 鳩尾形(ハトのしっぽみたい！)

窩洞が持つべき条件

3) 十分な抵抗形態をもたなければならない。

かむ力などの外力に抵抗できるようにする。

例) 健康な歯質をできるだけ保存する。

4) 必要な便宜形態をもたなければならない。

歯の治療時に修復操作がしやすい形にする。

5) 正しい窩縁形態をもたなければならない。

窩縁歯面角, 窩縁隅角, 斜面隅角

窩縁斜面(ベベル)・・・エナメル質窩縁が欠けたりしないよう保護するために作る。